

「城山憲法九条の会」結成5周年記念

# アイラブ憲法

-わたしたちの活動-

再び戦争しない・再び被爆者をつくらない

思想・信条・立場の違いをこえて憲法9条を守りたい!



結成5周年の集い—星野恵利コンサート

城山憲法九条の会

# 目次

P 2 結成5周年にあたって  
長崎の地に生きる 楠田昌子(共同)代表世話人



P 3 〈城山憲法九条の会〉5年の歩み

P 6 〈城山憲法九条の会5周年の集い〉報告(概要)

P 8 アイラブ憲法九条ー私の活動ー5周年にあたってのメッセージ

## 〈城山憲法九条の会〉ニュース・チラシ等

(結成3周年のつどい～現在まで)

P18 2008年 4月 ニュース18号(3周年のつどい・九条の会交流会報告、九条フェスタお知らせ)

P20 7月19日 講演と音楽の集いの案内

P21 10月15日 ニュース(講演と音楽の集いの報告)

P22 2009年 1月 4日 4周年の集いの案内

P23 4月 8日 城山小・西城山小新入生父母への呼びかけ

P24 4月10日 ニュース20号(4周年の集いの報告)

P25 7月 4日 夏の集いの案内

P26 8月 9日 ニュース21号(夏の集いの報告)

P27 9月 9日 9・9の集いの案内

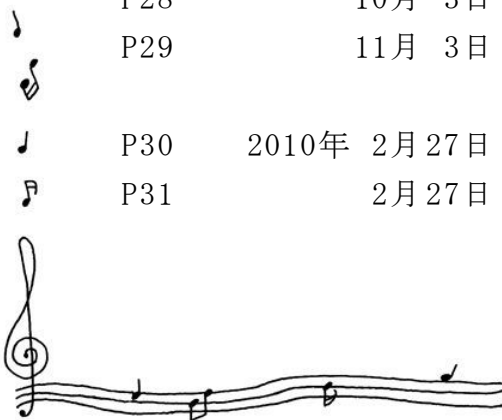
P28 10月 3日 ニュース22号(9・9の集い報告、遺構巡り案内)

P29 11月 3日 ニュース23号

(被爆遺構・碑めぐり・1万人署名運動の報告)

P30 2010年 2月27日 5周年の集いの案内

P31 2月27日 5周年の集いプログラム



## 長崎の地に生きる

## 代表世話人(共同) 楠田昌子



5周年で挨拶する楠田さん

はるか昔、大学を卒業後間もなく、愛知県の病院で仕事をしていた時のことです。ある御年配の患者さんのカルテに押された、赤い㊦のスタンプに目がとまりました。一体何の印だろう。お粗末ながらこれが私と「被爆者」との最初の接点でした。

縁あって長崎に住み、㊦の患者さんの多さに、「ああここは被爆地なのだ。」と実感し、長崎に落とされた原爆、そして戦争とは何であったのかを探す旅が始まりました。

ある時、義母が自分の被爆体験を話してくれました。義母は薬剤師で、当時長崎大学附属病院の薬局に勤めていました。戦争の状況がだんだん厳しくなり、病院で働く人も少なくなっていました。同じ職場でお友達だった‘えみこさん’も、1945年6月に退職し、御主人のお里へ帰っていたのですが、長崎が空襲にあったという知らせに、親しかった義母を心配し、どうしても会いたくなって8月8日の夜に長崎へ訪ねてきました。翌9日、二人で大学病院へ行き午前の仕事を済ませ、さあ御茶でもいただきますでしょうか、というその時原子爆弾が炸裂しました。義母は爆風に吹き飛ばされ、頭と肋骨に怪我を負いながらもしばらくして立ち上がり、同じ部屋にいた’

えみこさん’は、そこで息絶えました。助かった人たちに声を掛け合い、火の手を避けて金毘羅山へと逃げ、ついに頂上で倒れこみ眠ってしまったそうです。ふと気がつき、腕時計を見ると11時2分で時は止まっていました。

もし義母が‘えみこさん’と同じ運命であれば、私は長崎で原爆を考えることもなかっただろうと思います。朗らかに生きている義母ですが、たくさんの被爆者の方々と同じように原爆の記憶は心と体に刻まれています。

『城山憲法九条の会』が生れ5年。実にいろいろな活動をしてきましたが、何より私自身が多くのことを学ばせていただきました。そして、戦争の時代を想像できるようになった私は、自分をその時代に置いてみます。果たして耐えうるができるだろうか。答えはいつも「否」です。

戦争で命と未来を奪われた数え切れない人々の上に、私たちは立っており、その犠牲を経て今の平和があること、決して戦争を繰り返してはならないことを、教えていただきました。

これまで皆様の御支援・御協力のおかげで、活動を続けることができましたことに心よりお礼を申し上げますとともに、これからもかけがえのない平和を守るべく皆様と一緒に頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

# 城山憲法九条の会5年のあゆみ

## 「城山憲法九条の会」の結成

城山憲法九条の会は、2005年1月19日に発足。長崎市の城山小・西城山小校区を中心に活動しています。城山地域は原爆落下中心地から数百メートルの地域にあり、「会」は「再び戦争しない」、「被爆者をつくらない」を合い言葉に、憲法九条を守るために運動しています。

被爆者が大きな役割をはたしている「九条の会」で原爆遺族会会長、長崎証言の会代表委員、カトリック神父、小児科医院長、歯科医師、音楽家、大学・高校の教師、幼稚園園長などの方が世話人を担っています。



結成のつどい(05/2/20)

## 活動の目標と内容

- ※「憲法九条を守る」の声を住民の過半数にまで広げ、国民投票になっても九条を守り抜けるようになることをめざします。
- ※「会」の賛同者を広げ、賛同者に依拠して運動をすすめます。
- ※学習会、講演会、映画会、宣伝、署名行動などにとりくみます。
- ※定期的な世話人会の開催、ニュースの発行（現在17号）、ホームページの作成をおこないます。
- ※財政は募金でまかさないです。

## 結成後の活動

### 2005年

- 1月19日 「城山憲法九条の会」結成。
- 2月20日 結成のつどい（城山小学校から会場使用を拒否され、城栄会公民館で）。下平作江さんの被爆体験の講演と音楽家・園田鉄美さんの歌と演奏をおこないました。
- 3月28日 戦争体験者の話を聞く会「ノモンハン のたたかい」（講師は井手武雄さん、城栄会公民館）。
- 5月3日 「ながさき9条フェスタ」に参加。

- 5月26日 学習会「ほんとうの脅威は何か？北朝鮮のミサイル、核を考える」（講師は長崎大学助教授・富塚明さん、友愛社会館幼稚園）。



学習会 05/5/26

- 9月10日 講演会「戦争中の暮らし」（講師は広瀬方人さん）。他の「九条の会」との交流（憲法九条の会・諫早、うらかみ憲法九条の会が

参加、城栄会公民館)。

10月25日「映画 日本国憲法」の上映会 (友愛社会館幼稚園)。

11月3日 「ながさき9条フェスタ」に参加し、城山の「会」の活動を報告。



テレビが取材した映画会10/25

12月10日 「自民党の改憲案について」の学習会 (講師は井田洋子・長崎大学助教授、城山カトリック教会)。

12月19日 「県九条の会」主催の交流会に参加。

## 2006年

1月14日 城栄商店街で「憲法9条守れ」の街頭署名行動 (10人で28筆)。

2月18日 「映画 日本国憲法」上映会 (2回目、友愛社会館幼稚園)。

4月23日 原爆遺跡めぐり (城山小の被爆校舎、記念館、嘉代子桜、原爆柿の木、油木防空壕など)。



「嘉代子桜」前で06/4/23

5月3日 「県九条の会」講演会と「ながさき9条フェスタ」に参加。

5月20日 城栄商店街で街頭署名行動 (10人で80筆)。

6月10日 9条の会全国交流会に佐久間洋子事務局長が参加。

6月17日 「県九条の会」主催の全国交流会の報告会に参加。

6月24日 「講演と音楽のつどい」(講師は活水大講師・渡邊弘さん、音楽はうたごえグループ、友愛社会館幼稚園)。

11月22日 城栄商店街で「憲法9条守れ」の街頭署名行動(5人、70筆)

12月17日 ながさき9条フェスタ(公会堂、楠田代表世話人夫妻が活動報告)。

## 2007年

1月19日 結成2周年のつどい (高見三明・カトリック長崎大司教が講演、城山カトリック教会、150人参加)



高見大司教の講演07/1/19

5月3日 ながさき9条フェスタ2007。

5月9日 「憲法9条守れ」の街頭署名(5人、40筆)

5月26日 「子どものしあせと憲法」のつどい (講師は里見公義小児科医と門更月高校教師、城山カトリック教会)

9月29日 講演「韓国謝罪の旅」(講師・広瀬方人ストーンウオーク・コーリア代表、城山カトリック教会)

11月1日 「井上ひさし講演会」チラシ配布 (2カ所)。

12月6日 「井上ひさし講演会」チラシ配布 (2カ所)。

12月16日 県9条の会主催で井上ひさし講演会「聖地ナガサキから見た九条」、長崎大学中部講堂。

## 2008年

2月20日 結成3周年のつどい（城山カトリック教会、土山秀夫元長崎大学学長講演「次世代のための日本国憲法」。高校生1万人署名行動の報告。



講演する土山元長大学長

5月3日「ながさき9条フェスタ」水辺の森公園。  
7月19日「日本と中国関係を考える講演と音楽のつどい」（城山カトリック教会）-講演「中国人強制連行とは」（高實康稔長崎大学名誉教授）、歌と演奏（廖明智さん）。  
11月3日 県9条の会主催「池田香代子氏と元長崎大学長の土山秀夫氏との対話集会」。  
11月17日「九条の会」全国交流会、広瀬方人世話人が参加。

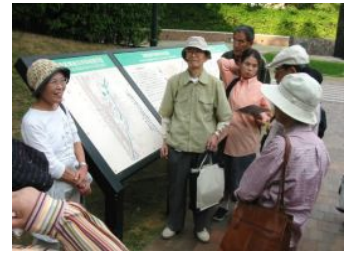
## 2009年

2月21日 結成4周年のつどい。記念講演「城山の歴史を語る」（越中哲也長崎歴史文化協会理事長）、歌（ピースソンググループ）。  
5月3日 九条フェスタ（水辺の森公園）に参加。  
7月4日 夏の集い（ゲオルグ・フライゼさんの講演と園田さんの歌：城山教会信徒会館、40名参加。  
9月9日 映画「日本国憲法」の上映会（城山 教会信徒会館）に12名参加



語るゲオルグ君09/7/4

10月24日 被爆遺構・碑めぐり（活水高校～爆心地）と高校生1万人署名行動報告（20名参加）。



爆心地公園 09/10/24

12月5日 アルカスSASEBOでピースフェスティバルinさせぼ（全国九条の会事務局長小森陽一さんの講演等）に佐久間事務局長が参加

## 2010年

2月27日 結成5周年の集い（ヒルデン神父講演・パネルディスカッション・星野恵利コンサート：城山教会聖堂）に約50名



5周年の集い 10/2/27

参加。

## 城山憲法九条の会 「結成5周年の集い」



講演するヒルデン神父

城山憲法九条の会は2010年2月27日（土）13時半から城山カトリック教会聖堂において、結成5周年の集いを開催し、約50名が参加しました。

最初に、代表世話人の楠田昌子さんの開会あいさつの後、会の世話人の一人でもある城山カトリック教会のマイケル・ヒルデン主任神父が「平和を求めなさい」と題して記念講演しました。

ヒルデンさんは、冒頭に米のオバマ大統領の「Yes we can」に対して、私たちは憲法九条を変えようとする人たちには「No you can't」と言おうと訴えました。37年間日本に在住しているが、25才まではアメリカで過ごし、その後日本で司祭として生きてきた立場から、平和に対する思いを語られました。

自分の祖先はドイツ人とアイルランド人の血を受け継いでいる。幼い頃はとても貧しい暮らしの中で生きてきて、やがて宗教者の道を歩み始めた。アメリカにいるときは、長崎のことは原爆の写真を通じてしか知らなかった。しかし、日本に来てから原爆のことを深く知り、これは人間の立場からも神の立場からも許されないものであると感じた。

平和についての思いは、いろんな方々の書いた本を読むことで目を開くことができた。また、キング牧師、ガンジー等の偉人と同時代を生きてきたことは、今の自分にも大きな影響を与えた。

聖アウグトゥスは「平和は秩序ある静けさ

である」と教えた。平和を壊す者は誰だろうか？また、誰が平和の言葉を広げるのだろうか？イエス・キリストは「汝の敵を愛しなさい」と教えている。

日本は、遠くの国の平和の問題より前に、隣国の言葉を学ぶ等、アジアを平和の共同体としてとらえることが必要ではないか。世界は武器のない世界へ動いている。憲法九条で世界に貢献することができるのではないか…。と外国人として、また宗教者の立場からの憲法九条への思いを語られました。

その後、「アイラブ憲法九条」をテーマに、5名の方々がパネルディスカッション



パネラーの5人

形式で、それぞれが9条への思いを語り、会場からの意見も交えながら論議を行いました。

まず、進行役の廣瀬方人さんが発言。日本は1991年湾岸戦争で1兆3千億円も資金を出したのに、金しか出さないとバッシングを受け、マスコミは「国際貢献のために改憲を」とのキャンペーンを張り、当時の世論調査では、「憲法を変えるべき」とする人が7割だった。2004年に9氏が呼びかけた「九条の会」は全国に広がり、昨年には「憲法を変えない」とする人が7割に広がった。このなかで憲法九条の会の果たした役割は大きい。3年前に改憲勢力によって強行された「国民投票法」が今年の5月から施行されることになるが、城山九条の会がこれからどう活動していくか、それぞれに思いを語ってもらいたいと口火を切

りました。

**奥山忍さん**は、学校で日本史を教えている



が、日本の加害責任にも目を向けつつ、戦争の実態を生徒と一緒に学びながら、9条の大切さを伝えたいと思っている。一方で、国民投票法が施行されたら、教員

の言動にどのような規制がかかってくるのか心配であると語り、子どもたちへの平和教育の中での教師としての思いを語りました。

**楠田昌子さん**は医師としての立場からの体験や思いを語りました。。城山憲法九条の会に参加して5年になるが、これまでいろ



んな集いや取り組みに参加して、戦争の実態を感じる事が出来た。2003年にイラクを訪れたが、劣化ウラン弾によるとみられる白血病の子どもが多く、病院には薬が足りない。イラクから友人の医者をも日本に招き、彼が帰国してからはメールのやりとりをしている。彼によると、「目の前で苦しむ子どもを救ってやれない苦しみをつくづく感じている。一方で平和な日本の風景を見て、当たり前なのが当たり前である世の中に心が安らぐ。」とのこと。

**熊谷紘子さん**は。昭和19年に父親が召集されて、戦死の知らせは昭和31年に来た。その後母子家庭に対する差別が激しかったと語りました。自分に子どもが出来た時、憲法9条によって守られていることを実感したこと等を切々と語りました。



**里見公義さん**は。1946年に上海から引き上



げ、博多から貨物車で嬉野にたどり着き、その後小学校6年のとき城山小学校に編入になった。城山に医院を開業して21年になるが、毎日子どもたちを診ていて思うのは、子どもたちを戦争に参加させないために、若い人たちに九条への理解を広げたいことであると語りました。

**山口秀樹さん**は。この地区にはカトリックとプロテスタントの教会があり、共に九条の会に関わられていることに喜びを感じる。幼稚園児を、原爆資料館に連れて行き、振り袖の少女の絵や像を見せる。来年には嘉代子桜の苗木を植樹する。憲法前文に初めて触れた時は、夢と希望を感じた等と語りました。



会場からは、毎年夏に子どもたちに向けた被爆者の話や映画会などを取り組んでいる。昨年には270人が参加し、140通の感想文が寄せられた。城山憲法九条の会は、ささやかだが、地域とつながることが大事だと思う。住民の過半数が「ノー」の声を上げるよう努力していきたいとの発言がありました。また、東京から参加したという学生は、集いの会場がカトリックの教会であることに驚きを感じている。とても良い雰囲気だと思う。長崎ゆえの特殊なことなのかとの質問も寄せられました。

つづいて、長崎の音楽界の第一線で活躍されている、オペラ歌手の星野恵利さんとピアニストの後藤美樹さんによるコンサートがありました。

客席後方から「アメージンググレイス」を



歌いながら登場した星野さんは、「この会場で歌えることを楽しみにしていました。」とあいさつ。その後、「早春賦」「中国地方の子守歌」など親しみのある歌を演奏した後、マスカーニの「アヴェマリア」を自ら作詞したラテン語の典礼文で披露しました。

また、後半は後藤さんがショパンの「ノクターン」をピアノソロで華麗に演奏、続いて星野さんが聖堂を舞台に見立てての「おお幾度か」、「マダムバタフライ」から「ある晴れた日に」を情熱的に演奏、またアンコールで

は歌劇「トスカ」から「愛に生き恋に生き」を歌われ、5周年の集いを締めくくるにふさわしい、格調高く、聖堂に響いた素晴らしいコンサートとなりました。

最後に、佐久間洋子事務局長が閉会のあいさつを行いました。なお、この日会場で募金として32,521円が寄せられました。

## アイラブ憲法九条・私の活動

(これ以降の写真は活動の紹介で、直接本文の写真ではありません)



4周年で講演する越中さん  
(09/2/21)

「城山憲法九条の会」結成5周年にあたり、事務局からの会員の方々に「アイラブ憲法九条～私の活動～」と題して寄稿を依頼したものに対して寄せられたものです。

ないですか、……言葉の意味がとけ込んできません。

こんな感覚や感じ方のずれがあるのですから、憲法のことを若者は、私のように受け取っていないことは想像できますが、どのように聞いているのでしょうか。

「我らは、平和を維持し、専制と隷属、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う。」これらの言葉を聞いた時、私は希望を持って青空の向こうへ歩いて行くというような胸の高鳴りを感じました。若い世代の残像に共鳴していないのかもしれませんが、今でもそんなときめきを感じます。

現代の若者がこの言葉に、このような希望や胸の高鳴りを感じないとすれば、現実の世界が「平和を維持し」ようと「努めている」とは思えない、他国への支配や貧困・差別を

### 山口秀樹さん

(会世話人・友愛幼稚園園長、四杖町)

若い人たちと感覚や感じ方がずれているという思いを最近強くします。唄のリズムや日本語を分解したような歌い方が、心打ちません。お笑いタレントの大口開けて手をたたいて笑い合うやりとりが、さっぱり笑えません。癒される、差別化、評価、マニュアル、じゃ

「永遠に除去しようと努めている」とは思えない、ということでしょう。

けれども、いろんなNPOやボランティア活動の様子を聞けば、やはり若者は、私たちが憲法の言葉に感動したように、それとは違う言葉や映像や情報に、違う感覚で、友情や平和への希望と胸の高鳴りを感じているのでしょう。

その時代が夢や希望にあふれているから、夢や希望の言葉を聞くのではありません。たとえどんな絶望と闇の世界であっても、夢や希望をもって語る人の言葉を聞いて、光が胸にさしこむのです。私たちが憲法の言葉を聞いて胸が高鳴ったのは、夢と希望をもって語ってくれた大人たちがいたからです。私も平和について夢と希望をもって語る大人の一人でありたいと願います。

### 穂坂裕二さん(春木町)

日本国憲法制定については、どのような経過があったか、当時の記録を見ると、戦争で最も大きな被害者であった女性が選挙権を持ち、選ばれた国会議員が憲法草案の文章のひとつひとつを長時間検討して完成されたようである。

最近、改憲の動きがあり、徐々に激しくなり改憲を意図する方向に動いているようである。

いま社会の各方面で活躍している人々は、戦争で空襲或いは機銃掃射の経験はなく、アメリカが公表する30年前の文章や回想録を研究し、今後の判断をしているのが現状と思う。戦争の悲惨は状況についての認識は個人差があるが、高齢者は反戦の思いは強いと思う。

時々テレビで国会中継があり、それを見ていると発言が抽象的で、法案が成立後に我々はどうのような恩恵を受けるかは不明な事が多い。気が付いた時には取り返しのつかない事態になる恐れさえあるようである。

最近、戦争が終わってから60数年「外国を攻撃した事のない国は日本だけ」との言葉がある。これは我が国に憲法9条があり、日本人がこれを守ってきた事実によるものであろう。

今後、再び戦争により破滅に至らぬよう国民の努力が必要である。

### 園田鉄美さん(会世話人、音楽家、油木町)

憲法第99条には「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の



公務員は、このFREEDOMの演奏09/2/21)憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。」と規定されています。

私も公務員ですが、それ以前に、子どもの頃から両親や学校の先生から戦争や原爆の話聞く機会も多く、当時は市内のあちこちに防空壕がたくさん残っており、傷痍軍人や被爆者の生々しい傷跡を目にすることもありましたし、中学・高校時代には友人達とベトナム戦争について論じ、社会人になってからは労働組合や平和運動にも関わってきたこともあって、今日まで憲法を守るのは当たり前と思いき、9条の会ができた時は何のためらいもなく入会しました。

さて、2007年の5月、自民党政権下で憲法改正手続に関する法律が強行採決の上、

成立しました。そして、この法律は今年5月18日をもって施行されます。

「この憲法の改正は、各議院の総議員の三分の二以上の賛成で、国会が、これを発議し、国民に提案してその承認を経なければならない。この承認には、特別の国民投票又は国会の定める選挙の際行はれる投票において、その過半数の賛成を必要とする。」(憲法第96条)とされていますが、鳩山首相も時期は明言しないながらも改憲を否定していませんし、国民投票の有権者は18歳以上とされていること、9条の改正が例えば国民の人権にプラスとなる改正と抱き合わせの形で出た場合等、9条を守ろうとする私たちの主張や呼びかけの幅の広さ、層の厚さ、多様さが問われてくるものと思われま

す。国民投票が実施される前には、国会論戦やマスコミ報道等で国民的議論が起きると思いますが、親族や友人、職場や地域など周りの人に「9条の改正に反対投票を」と訴え、過半数の賛同を得ることができるかと考えると、城山憲法九条の会がもっと地域に根ざし、親しまれる存在として、大きくならないとその役割を果たすことが出来ないのではないかと思います。そのためにも、今後自らの“歌う活動”も含め、決意も新たに皆さんと共に頑張っていきたいと思

## 川端京子さん

(青山町)

「国民投票に意思表示を」

城山憲法9条の会5周年を迎えて、

沢山の集いをありがとうございました。いく



被爆遺構巡り(09/10/24)

つかの中でも各々意義のある集いばかりでした。220名の会員をささえて下さっている運営の方々に感謝します。

政権交代以降からの様子は、新聞、テレビ等での内容は目に余るものもあって、時には以前より安心して暮らせるかどうか、良い方向に社会が行ってくれるかと心配になります。この事は私達自身の意識次第で私達の問題として大切な事です。大袈裟になるかもしれませんが、生きる事のきびしい現実を、これ迄以上に味わい生きていかなければならないと常々思っています。

『60年間、戦争として人を殺したことがないのは、世界で只日本だけ。だからもっと論理的にしっかりした気持ちを持つべきだ。もっと勉強してほしいし、意識をはっきり持った人間になってほしい。“安保闘争”の時迄は、国民はしっかりしていたのに、なぜその後骨抜きな人間になったか』(NHK深夜便で「戦争体験と昭和史研究」作家半藤一利さんの話をされた言葉の一部分です。

私もその通りだと思います。この話を聞いて、今“九条”を守って行くのは日本それに世界中の人々の責任でもあって、日本で今後「国民投票法」が施行されたならば一人でも多くの人に、正々堂々と九条の永久保存に意思表示!と、叫びたいものです。

私からの提案ですが、戦時中の当時、子どもたちは悲惨な生活を体験してきました。その様子を若い方々に聞いてもらいたいのです。衣・食・住のひどい暮らしぶりを子どもに聞かせてきたものの、「おかあさんの話はまた戦争の話。何回話せば終わるのかしら。」と、その場から去る子どもたちでした。私の話し方に問題があったのだろうと反省しています。このようなことを話せる会はいかがでしょう

か。計画のひとつに加えて頂ければと思います。

### 里見公義さん(会世話人、小児科医師、城栄町)

「城山憲法9条の会結成5周年に寄せて」

太平洋戦争が終結して64年、この間日本は戦争をしなかったわけで、63歳未満の人は戦争体験がまったく無いわけである。これは憲法9条のおかげであるということ認識している人は何人いるだろうか？

私自身も4、5歳ころの記憶は薄れつつあるし、戦争の記憶としてはかすかに防空壕に入っていたこととか、終戦後疎開先から満員の列車に押し込められて帰ったことくらいしか覚えていない。

小学校6年生の時に城山小学校に転校してきたが、今の被爆校舎のところは鉄筋がむき出しで原爆の爪痕を無惨に残していた。あちらこちらに焼け野原があって、自宅の庭を掘ると焼けた瓦とか溶けて変形した瓶などが沢山でてきた。

この城山地区で育ち今生活している者の一人として、「戦争の放棄」、「戦力の不保持」、

「交戦権の否認」を謳う平和憲法を守るために、「城山憲法9条の会」を結成しようという動きがあったとき、私も世話人になることに同意した。集いとか学習会、講演会など様々な企画がなされたが、私自身決して活発な仕事はしてこなかったことを反省している。ただ、これからも子

どもたちを戦場に送り出さないための運動を微力ながら続けていければと思っている。



つどい (07/5/21)

### 深堀 柱さん (宝栄町)

2009年12月18日「城山憲法九条の会」から原稿依頼があった。宗教的で申し訳ないが、カトリック新聞も同時に配達され帯封だけの新聞から読み始めた。

目に入ったのは、「憲法9条の支持誓う 韓国 アジア諸宗教者が会議」という見出し。リードにアジアの宗教指導者たちが、戦力の不保持と交戦権の否認を規定する日本国憲法九条の保持を継続して支持していくことを誓った、とソウルCNN発の記事があった。12月初旬、ソウルにアジアの8つの国と地域から約80人のキリスト教、仏教指導者らが集い、日本の憲法九条に関する諸宗教会議が開かれたと本文は続く。下段に「憲法9条を世界の宝に」といった日本カトリック正義と平和協議会ピース9の会の“PR”の囲み記事も掲載されていた。アジアで、憲法九条に関する議論が交わされた、という会議にまず驚かされた、という認識に欠ける会員で恥ずかしい。

先にも触れたが、城山憲法九条の会から原稿依頼の郵便、カトリック新聞の憲法九条の会がソウルで開催された、という記事……。偶然というか二つの関連に無関心な私には、ちよっぴり“衝撃的”だった。旧制中学4年の時、学徒報告隊で動員されていた三菱茂里町兵器工場で被爆死した友から、「おい、深堀「憲法九条」について勉強せんば」ときつい忠告だった、と受け止めている。

さらに彼らに背を押され、08年12月29日～09年1月14日までイタリアのピエモンテ州に「被爆証言者」として招かれ（現地滞在時間15日間）、その使命を果たすことができた。原爆資料館を参観のイタリア人から「被爆者の生の声を聞きたい」という要望

から大阪に住むイタリア人司祭との二人三脚で教会・修道院・県・公立高校など九カ所を巡った。車を走らせると、10数分でスイスの国境という雪の深い地域。約30センチの雪が積もっていた。オバマ米大統領の言葉で



3周年ついで(08/2/23)

はないが、核のない世界平和の実現を願い、雪けとばして歩を進めた。

## 深町孝郎さん(会事務局、立岩町)

日本国憲法への思い

異常なほどの竜馬ブーム。私は竜馬が師と仰ぐ勝海舟にもっと注目したい。勝は江戸城無血開城の立役者であるだけでなく、日清戦争は欧米流の植民主義だとして終始反対の立場を貫いた。この点で福沢諭吉は勝の対極に位置した。NHKドラマ「竜馬伝」で勝海舟がどう扱われるかを関心もっている。また今放映中のドラマ「坂の上の雲」は侵略戦争である日清、日露戦争に勝利した明治時代を賛美するものだけに要注意である。

日本は維新後、欧米列強と覇を競い、日清・日露戦争、日韓併合、太平洋戦争へ突き進んだ。その結果、日本国民3百万人とアジア国で2千万人が犠牲となり、長崎、広島は悲惨な原爆投下を体験することになった。

この道の反省のうえに、憲法9条をもつ日本になったはず。第一次、第二次世界大戦を通じて広がった戦争や武力行使を批判する考えが国連憲章となっている。九条はさらにそれをすすめて、戦争行為や武力を否定する崇高なものとなっている。

今日の対テロを口実にしたイラク戦争やア

フガン戦争は、テロをなくすどころか、テロを広げてしまった。これは戦争や武力ではテロも防げず、平和も守れないことを示している。その対極にある九条の思想が輝いている。

北朝鮮の脅威を理由に憲法改悪の主張が強まっているだけに、九条の大事さを語ることもますます大事になっている。

今日、国民の暮らしや人権の憲法違反状態が広がっているだけに、憲法を暮らしに活かすことや、憲法を民主主義を守る砦にしておくことが重要になっている。

改めて日本国憲法を学び、憲法を活かし、世界に広げることに、微力であっても、取り組みをつづけていきたいと思う。

## 橋口亮子さん(会事務局、油木町)

原爆が落とされ、終戦となって大人たちはなぜ負けたのか悔しがる人もいましたが、7歳の私は、原爆の恐ろしさとB29が飛んでこんだだけでもいいと思っていました。

しかし本当の喜びは日本国憲法が施行されてからでした。戦争は二度としない、武器も持ってはいけない。憲法九条は、戦争の放棄を世界に宣言しました。あの忌まわしい暗黒の時代から一変して、澄みきった青空のごとく変わったのですから。

それから平和が当たり前の時を過ごしてきましたが、憲法を学んでいくうち、前文の奥深さを感じます。九条を重ね合わせると感動します。

しかしここ数年、九条改憲の動きが強まっています。なぜ、と疑問に思います。世界に誇れる九条は世界中の人が認めています。改憲しようとする人たちは、幾多の人たちの犠牲があつて憲法が作られたことに心が痛むこ

とはないのでしょうか。

憲法九条は宝です。子や孫たちも宝です。戦争への道を開く片棒はかつげません。平和、人権、平等の憲法を守り抜き、次世代に継承していきたいです。

国民投票法も新政権のもとで目が離せません。出来ることなら欠陥法案は廃止が望ましいと思っています。5周年を迎えて城山憲法九条の会の発展に少しでも役に立てばと思っています。

## 山田明子さん

(小江原町)

東京で起こった「憲法九条の会」は、またたく間に日本全国に拡まった



9条フェスタ(08/5/3)

5年前、私は郷里の山陰の田舎に帰った時も、街角の掲示板に「九条の会」の事が出ていて、どんなに嬉しかったか、こんな田舎にも「憲法九条を守らなければ」と云う人々の思いが結集しているのだ！と。

戦後64年間、日本国民は戦争の憂き目にも遭わず、他国の人も殺傷せず、平和に暮らせて来たのは、九条のお陰だ、と思っている。戦争を知らない若い人達はこの平和な状態が当たり前で、それは九条のお陰だと思っていない人も居る。

私は「平和省を作ろう」と云う市民運動にも参加している。この運動は、今や二十数カ国に拡がっている。国の国防省とかに替わって、紛争や暴力を話し合いで解決し、平和の文化を築こうと云う運動である。これは憲法九条の精神を生かすための具体的手段の一つ

である、と思っている。すでにネパール、ソロモン諸島、コスタリカには出来ている。

今年は「ヒバクシャ地球一周証言の航海」が行われて、行く先々の国から日本の平和憲法は高い評価を受けたと云う。

オバマ大統領のプラハでの「核なき世界」の発言も、どこまで、何時頃までに実現出来るものか、その発言は本物か、自国の国益のためではないのか、ノーベル平和賞は本当にその効果を挙げる事が出来るのか、我々は希望と期待と（一抹の不安をもって）彼の言動と世界の反応を見守り、平和の実現に協力して行かねばならない。世界は核で政治することを止め、日本の憲法九条で平和を実現しなければならない。3年前の安倍政権時、憲法改正論が起こり、国民の意見を聞くための「国民投票法」が出来た。2010年は実施の年である。国民の一人一人の自覚が大事である。

当面、核を国際管理し、日本は核の傘から出て、九条のもとで国際社会をリードして行くべきである。



9条フェスタで(08/5/3)

日本憲法は世界の宝、戦争のない世界こそ、人類も地球も生き延びることが出来る。

## 水谷厚子さん (会事務局、小江原町)

政権が変わり、何となく憲法改定の話は遠ざかっているように見えますが、水面下では、どんな動きがあるのか、怖いものを感じています。

戦後、私たちは憲法に守られ、国内外で戦争をおこすことなく64年を迎えました。憲

法九条は日本の戦争に対する反省だけにとどまらず、平和を求める人々の願いがこめられています。また、憲法九条は日本だけでなく世界の人々の希望です。日本国憲法は九条に限らず、私たちが人間らしく生きたいという願い、社会生活を営む上での指針、宝です。

2010年5月から国民投票法の施行が可能になります。

改憲論者たちは、どう動いているのか知りませんが、日常のテレビ等でそれとなく九条への攻撃や、抑止論が飛び出しています。

マスコミ、メディアが何をどう取り上げるのか？大きくアンテナを広げることも大事ではないでしょうか？

全国で九条の会が草の根で広がっていますが、マスコミなどを通じて得る情報は目、耳、口、瞬く間に大きな力を発揮します。

マスコミの良い情報には励ましを、また、間違った放送には抗議を等、すばやい行動が必要になります。真実が見えにくくなったらと思うとぞっとします。

全国に広がる九条の会に得体の知れない大きな網が覆いかぶさるような錯覚を覚えることがあります。

憲法を変える真のねらいは何か？「海外で戦争できる国づくり」にあること等を沢山の人たちと一緒に議論し、しっかり学び、広く知らせていく運動を強めていかなければならない時期に来ているのではないのでしょうか？

(母は言います。戦争に反対することさえ知らなかった、いつの間にか戦争に突き進んで言っていた。ということのないように。)

世界の情勢は平和をめざす流れになっています。「核兵器のない世界」への願いも現実のものに近づいている今日、九条は世界から高い評価をうけています。

平和な未来を切り開く力を憲法九条は与えてくれます。

## 中尾 愛さん (雲仙市愛野町)

私には戦争の記憶がありません。けれども、平和活動や九条の会を通して、戦争や原爆を体験した人達のお話を直に聴く事で、戦争の怖さや惨さ、醜さを追体験することができます。

長崎に生まれ育ち、幼い頃から原爆の恐ろしさ、被爆者の叫びを身近にふれ追体験してきた事で、核兵器廃絶の為に自分には何ができるのか考えてきました。核兵器をめぐる構造や世界の動き、確実に広がり続ける幅広い市民の運動の力、今もなお罪なき市民の命を奪い続けている戦争の事を学ぶにつれ、初めは「知る」事で精一杯だった私の平和活動は、「つながり、知らせ、表現する」事も加わり、今では私の日常の真ん中にあります。

19歳の時に、めざす平和の実現にむけて奮闘する仲間たちと何より(すぐ落ち込む)自分自身を励ますために、所属する平和委員会の通信に描き始めた四コマ漫画の連載は今年で12年目に入ります。

果たして九条を守るために私が今やっている事は、足りているのか、意味があるのか？…不安になったり、落ち込んだりしてしまう時もありますが、そんな時に九条を守る一致点でつながる九条の会の存在は、心の支えになり、励まされます。

知ること、学ぶこと、語り合うこと、つながること、知らせること、表現すること…誰



高実先生講演(08/7/19)

もが自分のやり方で！…わかっていながら、なかなかその一步が踏み出せない人も、みんなが九条を意識し、語り合える場である九条の会に来ると、その第一歩を踏み出す勇気やヒントがわいてきます。

国民投票法の施行を前に、更に一步をふみだし、また初めの一步を共にふみだす仲間を広げていくために、扉を大きく広げた城山九条の会のあたたかな取組みが、確かな光を放つ灯台のように思えます。

## 佐久間洋子さん

(会世話人・事務局長、春木町)

世話人を中心に、毎回の「つどい」参加者、賛同人など20人を超える方に、寄稿のお願いをしたら、早い人は1週間後、年末には10名の方から原稿が寄せられた。今回お願いの文章は園田さんが作られたが、それに書き尽くされていて、何を書いてもそれをなぞるだけに思えて手が止まる。

そこで、2年前、「3周年のつどい」を呼びかけるチラシを改めて読み直してみる。

「現在、国会は改憲勢力が圧倒的多数です。“改憲は許さない”を国民多数の声にしましょう」と訴えていた。民主党政権になって替わったか？表向きのソフトさに惑わされそうな分、かえって怖い。

救いは、ほんの少しでも「国民の声に耳を傾ける」姿勢が見えることだ。この5年間で、全国に9条の会が燎原の火のようにひろがり、国民多数があげた声が国会に、マスコミに、届くようになってきてると感じている。

この流れを速めるのも、押しとどめるのも、私たち一人一人にかかっている。責任を感じる一方で、「なんてステキな時代に行き合わせ

ている」とも思う。

別件だが、今年5月、NPT再検討会議に『核兵器のない世界を』署名を届ける代表団の一人として、ニューヨークに行かせていただくことになった。間もなく70歳になるうとする身で、何を持ち帰れるか、不安はいっぱいだ。“死ぬ気で(?)”で頑張るよりない?!

## 廣瀬方人さん

(会世話人、証言の会代表委員、若草町)

08年

4月8日、  
読売新聞  
が悔しそうに「憲法改正に



東京で講演会(05/7/21)

ついでの世論調査」の結果を発表。それによると、15年ぶりに、憲法を変えないほうがいいという人が、変えたほうがいいという人を上回ったということであった。

「15年ぶり」というのは1993年以来ということ。その年、アメリカ政府が「日本の自衛隊を海外派兵するため明文改憲を要求」したのです。

その2年前の湾岸戦争の時から「憲法九条があるから日本は国際貢献が出来ない」というアメリカの強い非難を受けて、マスコミのキャンペーンが始まりました。湾岸戦争で日本は1兆3000億円近い貢献をしたにもかかわらず、感謝されなかった。だから海外派兵で「国際貢献」が出来るようにするべきだというキャンペーンでした。

(九条の会の発足以来の経過)

※2004年4月の世論調査：憲法を変えた方が いいという人の 割合…7割近く





つどい (08/7/19)

※その年の6月10日、井上ひさし、大江健三郎を初めとする9人の呼びかけ人による「九条の会」の結成。

しかし多くのマス

コミが黙殺。  
※呼びかけ人が中心になって全国で講演会や催しが行われた…大きな転機

※2005年から全国各地で「九条の会」の結成

※2005年、06年、07年、「憲法九条を変えないほうがいい」という人の数が年々増加。ついに、2008年4月の調査で改憲反対の数が賛成者を上回りました。全国の「九条の会」の数は、2005年…2000、2006年…4000、2007年…6000と増加。読売が「改憲派の数が3年連続で減少」と報道、ついに08年4月の報道で「逆転！」したのです。

※現在「九条の会」は全国で7000を越えています。

※私たちの「城山憲法九条の会」も2005年に発足して、日本の憲法改定の動きを封じ逆転させる運動の一端を担ってきたということです。

※全国九条の会からの呼びかけ

1. 一人ひとりの創意や地域の持ち味を大切にしたり取り組みで憲法を生かす過半数の世論を
2. 継続的・計画的に学習し、条文改悪も解釈による憲法破壊も許さない力を地域、職場に
3. 思い切り対話の輪を広げ、引き続き小学校単位の会の結成に意欲的に取り組み

を。交流・協力のためのネットワークを

## 楠田昌子さん

(代表世話人、歯科医師、城山町)

「悪の枢軸」と旧ブッシュ政権が名指ししたイラクとイランに、私は大切なお友達を持っています。中には、20年来の長く深いお付き合いもあります。

一緒にピクニックにも行きました。お国自慢の美味しいお料理を心をこめて作って下さって、それらの思い出は今でも私の心を暖かくしてくれます。

長いお付き合いの中、人生の喜怒哀楽「子供が生まれたよ。」「父が亡くなってね。」ということも、ともに共有してきました。

ある時、お正月の餅つきの光景を一緒に見かけたお友達が、イランにも同じように餅つきがあると教えてくれてびっくり！話をしてみれば、新年を迎える習慣にいくつも共通点があるのです。なーんだ、同じ人間だから似たことがたくさんあって当然です。

もし、お友達がいる国と日本が戦争を始めたら、武器を取りますか？とんでもありません。

戦争なんて、いまどき時代遅れです。いくらでも話し合うことができるでしょ。同じ人間なのですから。

伊藤塾塾長の伊藤真さんの言葉を一部抜粋して引用させていただきます。

「憲法は、飢餓、貧困、人権侵害、差別、環境破壊などの戦争の原因を除く積



渡辺先生講演(06/5/20)

極的な役割を国際社会で果たすことを通じ、他国から信頼され、攻められない国を作ろうとしました。これは日本の安全と平和だけではなく、世界平和に向けた、最大の国際貢献になります。」カッコイイでしょ！今、まさに必要とされていることです。私は日本国憲法をもって、鼻が高いです。

最近、小さな田んぼと畑を借りて、作物を育てる練習を始めました。お米ってすごいです！初心者であっても、化学肥料や農薬を使わなくても、ちゃんと実ってくれるのです。自分でお米を育ててみたら、「これで生きていけるぞ！」なんて自信ができました。少ないながら自分で育てたお米を手にする、嬉しくて、ついお友達に押しつけてしまいました。「おいしいから食べてみて！」

誰とでも、どこの国とでも分かち合えたらステキです。

## 熊谷紘子さん（城山台）

空は青く澄み山あり、海あり、歴史ある文化に囲まれた町一長崎。長崎に憧れて城山台に建てた終の棲家からは、緑豊かな稲佐山を目で降りるとココウォークの観覧車が見えその傍らに原爆病院が見えます。もう少し目を凝らせば原爆資料館の入り口を見ることができます。

夫とコーヒーを飲みながら四季の風景を眺めることができる幸せを噛みしめながら何時も思うことがあります。それは、突拍子なことかも知れませんがあの日この家で暮らしていたら私はどうなっていたかしら？とってしまうことです。

あの日の私は、母方の親類の和歌山に大阪から疎開していました。私は幼いながらも私

たち親子が“よそもん”“厄介者”視されているのを感じていましたが、母は何時も「お父さんが帰ってくるまでネ」というのが口癖でした。

父は私が2歳の1944（昭和19）年に32歳で赤紙で招集され、送られた先は満州東北部でしたが死亡告知書（公報）を受け取ったのは1956（昭和31）年6月でした。父のいた部隊は豊富な武器を有するソ連の電撃的な攻撃で全滅しました。記録はありません。残せる状況ではなかったのです。

私は母子家庭に対する様々の差別と経済的な困窮に立ち向かっていかなければならない場面に直面した時、何時も「父がいてくれたら」と父を殺した戦争を恨み憎みました。父がいても解決しないことが多々あるとわかっていても戦争を恨み憎みました。結婚して子供が産まれた時、憲法九条があるからこそ平和でそして夫が招集されることがない事に安堵し感謝しました。

長崎の若い世代の人たちが核廃絶に取り組んでいる姿勢には頭が下がります。と同時に頼もしくこれからの世界の未来に夢と希望を抱かせてくれます。

私も「もう歳だから」なんて言い訳ばかりせず平和な日々がどんなに素晴らしいかを伝えていく努力を惜しまないようにしたいと思います。



9条フェスタ・ピースウォーク(07/5/

